

2011年8月号

通巻 572号



圓環

発行所 生長の家ブラジル伝道本部

発行人 村上真理枝



第一回生長の家アマゾンニア練成道場 神性開発日語見真会

Av. Eng° Armando de Arruda Pereira, 1266 - São Paulo

Tel.: (011)5014-2222 - Website: <http://www.sni.org.br> - E-mail: enkan@sni.org.br



せいちょう いえ きょうかそうちょう むかい よしお
生長の家ラテン・アメリカ教化総長 向 芳夫

「父の日に父を思い出す」

がっしょう
合掌ありがとうございます。

ちち ひ ゆらい とお
父の日の由来は遠くバビロニアにさかのぼり
ねん ねん むかし
4000年ほど昔エメウス (Emelsu) という
ひと とう しあわ ながい くだ しゆくふく
人がお父さんに幸せで長生きして下さいと祝福
するカードをすなにかいたという伝説がありま
す。1910年に北米のSonora Louise Doddと
いう方が父親の誕生日が1910年6月19日でした
のでその日を父の日として祝った事が始まり
であると言われております。1924年に当時の
ほくべい だいてうりやう
北米大統領 Calvin Coolidge がそのアイデア
を支持して、1966年に当時の大統領 Lyndon
Johnson が「父の日」を正式に宣言され、ブラ
ジル国では1953年08月13日に始まったとさ
れており、毎年8月の第二日曜日に祝います。
よ なか ちちおや ひと ひとり ようし
世の中に父親のいない人は一人もなく、養子に
なった人でも生命を受けたから生まれたこと
が事実で育てられた養父を継父として尊敬し、
感謝すればその感謝の念が通じるのです。以前
ある教化支部で聞いた体験談で、感動したこと
がありました。その青年は世の中の人一人
の父と一人の母が有りますが、私は幸い二人の
父と二人の母がある幸せ者ですと絶えず、生み
の親と育ての親に感謝しております、と発表
されました。もし何かの因縁で養子である事
を知った場合でもこの青年のように生みの親
と育ての親に感謝すれば必ず幸せになれます。

げんざい わたし すべ ちち ふか あいねん
現在の私があるのは凡て父の深い愛念のお
かげ ほか
陰に他ならないのです。幸い父は私が7才の頃
せいちょう いえ ふ かげ た こうみょうめん みちび
生長の家に触れたお陰で絶えず光明面をみて導
いてくれました。特に現在日本語による国際
ほんぶ こうしん で き ちち ながねん こんき あい
本部との交信が出来るのは父の長年の根気と愛
念のお陰であることを感謝する次第です。毎朝
おきたらまず姉と一緒に父から日本語の教科書
で日本語の勉強を2時間しました。何年間教え
てもらったかは記憶しておりませんが教科書の
12巻まで習いました。毎日日本語に触れる機会
が多いので、その都度父に感謝しております。
ちち た え き かされたことは「信用というも
のなが じんせい うち た ひと みと
のは長い人生の内に他の人が認めてくれるこ
とであり、自分からは精神誠意努力する事の
みであり、他に求められる物ではないと絶えず
きをつけて、間違いを起こさないように気をつ
けなさい。長年の信用も一度の落ち度で信用
を無くする結果になる」とおそわりました。
ちち ひ
父の日にちなんでブラジル全国又はラ米諸国で
かつどうくだ とう がた まごころ かんじやもう あ
活動下さいますお父さん方に真心から感謝申し上
げ幾久しく健康で幸福で有りますことを祈念いた
します。

さいがっしょう
再合掌



せいちょう いえ でんどうほんぶ リ じちよう むらかみ まり え
生長の家ブラジル伝道本部理事長 村上真理枝

「大聖市の二十六年祭に想う」

がっしょう
合掌、ありがとうございます。

だいせいし たにぐちまさはるせんせい ちじよう さ はや
大聖師谷口雅春先生がこの地上を去られて早
ねん す でんどうほんぶ だいせいし ねんさい すう
26年が過ぎ、伝道本部では大聖師の26年祭が数
ひやくめい さんれつ おごそ かいさい だいせいし
百名の参列のもと厳かに開催されました。大聖師
たにぐちまさはるせんせい じんるいこうみょうかうんどう はじ
谷口雅春先生が人類光明化運動を始められてお
れなかったならば世界はどうなっていたら
かと思うとき、感謝、感謝の気持ちで胸が熱くな
ります。「自分はいま生長の火をかざして人類の
前に起つ！起たざるを得なくなったのである。友
よ助けよ。同士よ吾に投げよ！」と、勇気あるご
け つい た ちか かが
決意をされて起ちあがられたお陰で、どれだけ多
くの家庭が不調和から救われたでしょう！どれだ
け多くの企業化が破産から逃れたでしょう！どれ
だけ多くの青少年が両親の愛に目覚めることがで
きたでしょう！言葉で現せる感謝の言葉はないほ
ど私たちは本当に沢山の恩恵を頂いております。
だいせいし じんるい かんぜん すく にんげんかみ こ
大聖師は人類を完全に救う「人間神の子」の
だいしんり よ おく こうふく
大真理を世に送られ、幸福になるための人間神の
こ せいかつほう おし くだ なに
子の生活法を教して下さいましたが、何よりも
せんせい じ しん じっせんしや
先生で自身がその実践者であられたのでありま
す。谷口恵美子先生はご著書「心の旅路」209ペ
ージに、大聖師はどのような物でも大切に使うよう
こころがけることについて つぎ か
心がけることについて次のように書いておられます。

(前略)「父は靴や鞆なども大切になさって
ましたから、靴も十年以上も同じものをはいて
らっしゃいました。或る時、講演を終えて玄関
で じ ぶん くつ み まわ
出られたら、自分の靴がないので見回しますと、

ま なか りっぱ くつ そろ
真真中にとても立派な靴が揃えてありました。よ
くみるとそれは随行の方の靴で、父のを探したら
すみ ほう
隅の法にあったといひます。」(後略)
またご家族に対しては大変お優しい父であり、
おつと 夫であられたということが先生が出張の旅先から
まいにち かに ぞく あ て がみ いちれい
毎日のように家族に当てられたお手紙の一例でも
見られます。同著87ページに次のようにあります。
しょうわ ねん がつ か ふくおか とうきやう
「昭和17年1月24日 福岡から東京へ
かあさん、エミちゃん
て がみ か へんじ
手紙を書いたり、返事をくれたりする人があ
ることは嬉しいことです。吾々三人の生活は一つ
と こ えみ こ て がみ か
に融け込んでいるのです。恵美子さんと手紙に書
いても、輝子様と手紙に書いても、どちらでも一
つの感じがするのです。(中略)私たちは本当に
あい あ い かん はな
愛し合っているのだと云う感じが、離れてホテル
と いっそうふか かん
に泊まっているとしみじみと一層深く感じられて
くるのです。ひとつのいのち、ひとつのいのち、
かんが なみだ く あ がた
こう考えるだけでも涙がにじんできて来る有り難さで
す。ふしぎ よろこ ころりやく
不思議な喜びです。」(後略)

せいちょう いえ げつかんし せいてんほんぶ かつぱつてき おこな
生長の家の月刊誌や聖典頒布を活発的に行っ
て「すべての人間を神様にする」このすばらしい
おし ひとり おお ひと つた あたら かんぶ
教えを一人でも多くの人に伝え、新しい幹部を
多く いくせい そ しきうんどう きやうか たにぐちまさ
多く育成して組織運動を強化することが谷口雅
はるせんせい おん むく おも
春先生へのご恩に報いることだと思ひますから、
そうさいたにぐちまさのぶせんせい こんご き いつ ますますみなさま
総裁谷口雅宣先生に今後も帰一して益々皆様と
いっしょ あか かんじや み じんるい
一緒に明るく、はつらつと感謝に満たされて人類
こうみょうかうんどう こくさいへいわ しんこううんどう
光明化運動・国際平和信仰運動にがんばりましょ
う！ さいはい
再拜

「谷口雅春大聖師 26 年祭」



祭司を務める向芳夫本部講師
Oração ao Mestre - Prof. Mukai

去る6月16日(木)、伝道本部に於いて「谷口雅春大聖師26年祭」が厳かに執り行われた。大講堂の実相額の前に祭壇を設けて、供花・供物を捧げ、全員が大聖市に祈りを捧げ、感謝の思いを新たにしたりした日であった。

田丸秀雄講師の司会で式が始まり、ラ・米教化総長・向芳夫本部講師が玉串を捧げ、心から大聖師の御霊に礼拝した。

演壇下に設けられた焼香台で、聖經『甘露の法雨』の一斉読誦の中、参加者が次々と香を捧げ、感謝の真心を大聖師に捧げた。式の最後に、伝道本部理事長・村上真理枝本部講師が人類の救済に生涯を捧げられた大聖師の偉大な徳を称えて感謝の言葉を捧げ、谷口雅春先生のご出張の旅先での話をし、愛と美しさに生きられた先生の生涯を称えた。

式終了後、特別講演会がリリアン・スジ・バッフィ・ノリマツ本部講師補によって行われた。講話の中で、大聖師が霊界に旅立たれる前の最後のお言葉を朗読し、リ



大聖師へ感謝の言葉を述べる村上真理枝理事長
Palavras ao Mestre - Prof. Marie Murakami

リアン講師を始め、参加者全員が涙した。“われわれ生長の家の家族は決して一人ではない。常に大聖師に見守られ、導かれています。”と大聖師より頂いたご厚恩に感謝しながらその偉大なご遺徳を偲んだ。

少紙『円環』は、当時「生長の家ブラジル総支部」と呼ばれていた1952年、谷口雅春大聖師よりご命名と表紙題字『圓環』のご親筆を頂き、同年の3月4日、立教を記念して発行された。来年は満60年を迎える。

大聖師への追慕の念の一端として読者の皆様に紹介し、そのご遺徳を偲びたい。



感謝の真心を捧げる参加者

「森の中のアマゾンア練成道場」

講堂の落成式

緑の森の中に建設中のアマゾンア練成道場が、去る2011年5月27日に200人入りの講堂が完成を向え、落成式が行われた。134ヘクタールの耕地の中に堂々とそびえる建物は、日語組織とポ語組織が丸となって建てられた夢の講堂、涙の落成式となった。

闇の中にライト・アップされ浮かび上がった建物の、「ここアマゾンから光明化運動が始まるぞー」と伝道本部理事でもあり、パラー教化支部長の清水権吉講師を始め地元信徒の皆様は心新たに誓った。

午後7時30分より始まった式典で感謝状贈呈が行われ、アマゾンア練成道場の敷地(134ヘクタール)を寄付された故茂古沼先生の映像がスクリーンに映し出され、感謝のメッセージがビデオで流された後、ご長男が舞台上に呼ばれ、感謝の花束が贈呈された。ご長男は止めどなく流れる涙を抑えきれず、大変感動しておられた。ビデオには練成道場建設の第一人者である清水教化支部長にもメッセージが送られた。贈呈式の後、ブラジル生長の家理事長・村上真理枝本部講師の記念講話が行われ、516名の割れんばかりの拍手と熱気がアマ

ゾンの森の中に響いた。今から7年前の2004年5月27日に茂古沼家よりこの134ヘクタールの土地が、生長の家に贈呈され、名義変更のサインが行われた。偶然にサインの日と落成式の日取りが重なり、「神様が落成式のよき日を7年後の5月27日に決めてくださったのですね。霊界の茂古沼先生も喜んで下さっている事でしょう。」と清水教化支部長の奥様、清水幸子講師は感謝の真心をいっばいに話された。

落成式の翌日の5月28日から記念すべき第一回目の一泊日語見真会が行われた。地元で泊り込みでの見真会は初めての試みで、多少の不安はあったが、パラ州、アマゾン州、マランニオン州からの参加者で合計62名。

小人数であったが、城代洋講師の力強いそして、明るい講話に参加者は引き込まれた。参加者から、是非再びこのような会を開いてほしいと言う声があり、幹部の皆さんは次回の見真会に向けて希望を胸に散会した。

生長の家パラナ第1教化支部・パラナ第4教化支部

共催 光明講座



むらかみ まり え ほんぶ こうし こうわ き い さんか しゃ みなさま
村上真理枝本部講師の講話に聞き入る参加者の皆様
Seminário da Luz - Regional PR-Paraná (Londrina)

去る5月29日午前8時45分光明講座が開催され、天候にもめぐまれ、暑からず、寒からず、最高の光明講座日和となった。会場は第4教化支部をはじめパラナ第2教化支部、ソロカバナ第2教化支部などから大勢の皆さんの参加があり、500個の椅子が用意されていたが空席は見られなく、満席となった。

笹島彦栄教化支部長の開会の挨拶の後、生長の家伝道本部理事長・村上真理枝本部講師の第一講話が始まった。村上本部講師の講話では、体験談を交えながら、ユーモアたっぷりの講話を皆さんは時間が経つのも忘れ、第一講話は終了した。続いて福治房江ローザさんの体験談があり、自身の結婚当時のことと最近自動車事故に合い、車はメチャメチャになったが、中にいた4人は怪我ひとつなく、神様のお守りによって全員無事だったことなどを話した。

村上講師の第二講話「人生は心で支配せよ」、第三講話「家庭の幸福への道」、いずれも聞く人を魅了し、素晴らしい講話は参加者に深い感銘を与えた。第三講話の後、柳瀬ロメウ講師の体験談が行われ、少年時代に生長の家にふれ、イビウーナの練成会に参加して以来父、柳瀬剣太講師とともに車でロンドリーナ市で行われる幹部会に参加(自宅から約100キロ)、そして熱心に光明化運動に励んだ。講師試験にも合格し、後に結婚、日本行きと展開していった。日本でも光明化運動を続ける。

帰伯後、家業を継ぎ、そのかわら生長の家の講師として活動を行っている。在日中、父親の柳瀬剣太講師は他界された。

村上真理枝本部講師は最後に祈り合いの神想観の説明と実修を行い、静かな祈りで会場は清められ、光明講座は盛会のうちに無事終了した。

「慈善焼きそば会」



6月23日に伝道本部別館に於いて行われた「慈善焼きそば会」は白鳩会、相愛会、青年会又各教化支部の皆様、ボランティアの皆様のおかげで協力があり、明るい雰囲気の中で執り行われ、大成功となった。

焼きそば会は年に一度、白鳩会の恒例行事の一環として9年間行われて来たが、『大調和老人ホーム』の理事長・高橋信次本部講師はホームの維持費等のために、焼きそば会を提案したところ、白鳩会会長・リリアン・スジ・バッフィ・ノリマツ本部講師補の深い御愛念で「今年の焼きそば会は大調和老人ホームに譲りましょう」と快く譲って下さった。白鳩会の皆様の9年間に得た経験を生かし、伝道本部を始め、聖市第1, 第2, 第3, 第4, 第5, 第6, A B C, セントラル2教化支部は、それぞ



れブースを設け、新鮮野菜、果物、和菓子、洋菓子、工芸品、おにぎり、その他いろいろな品物が販売された。当日参加出来なかった支部は事前に地元で焼きそば会を行い、その収益を「大調和老人ホーム」に寄付した。午前10時30分頃、食堂の前には焼きそばを求め長蛇の列が出来、食堂は満席となっていた。お持ち帰りの方を含め約1200皿が完売となった。

白鳩会の日本語組織とポ語組織が一丸となって、前日から準備にかかり、一人一人の真心が成功へと繋がった。会場に詰め掛けた人数は約800名。収益は全額「大調和老人ホーム」に寄付された。



「東日本大震災と日本語」

せいし だいろくきょうかし ぶ おおしろよしお こうし
聖市第六教化支部 大城良雄 講師

さ がつ にち ひがしに ほん だいしんさい じ しん
去る3月11日、東日本大震災（地震、
きよだいつなみ ふくしまだい げんぱつじ こ はつせい
巨大津波、福島第一原発事故）が発生しま
した。今尚、被災地では余震が続いており、
ふくしまだい げんしりょくはつでんしょ ほうしゃのう ろうせつじ こ
福島第一原子力発電所の放射能の漏洩事故
が未だに解決されておりませんので、不安、
こんらん じょうきょう つづ してしや ゆくえ
混乱の状況が続いております。死者、行方
ふ めいしや まん せんにんいじょう ぎ せいしや で
不明者が2万8千人以上の犠牲者が出てお
り、余りにも災害の大きさに胸が痛みま
す。何とお悔み申し上げてよいのか言葉が
ありません。犠牲者のご冥福をお祈り申し
あ せいいつぱい どうほうく なん ひ さん
上げるのが精一杯です。同胞苦難、悲惨さ
なみだ なが まいにち ほうどう
を涙を流しながら、毎日、NHKの報道を
しちよう てんさい い みぞう
視聴しております。天災とは云え未曾有の
だいさいがい に ほんこくみん だれ む ねん おも
大災害に日本国民の、誰もが、無念の思い
か
を噛みしめているところであります。

この大災害の最中にあっても、日本国民
れいせい たいど が まんづよ たす あ せいしん
の冷静な態度、我慢強さ、助け合いの精神、
しょうてんりやくだつ お ちつじよ たも
商店略奪も起きず、すべてに秩序が保たれ
ていることに全世界の人々が驚いております。

元来、日本人は優れた民族であります。
なにごと まこと つらぬ に ほんみんぞく
何事にも誠を貫くのが日本民族であります。
む い しき なか に ほん すば でんどうてきせいしん
無意識の中に日本の素晴らしい伝統的精神
ぶんか あらわ のであります。「和を以って
とうと だいちょうわ ところ おも ところ
尊し」とする大調和の心、思いやりの心、
あいて たちば かんが ところ ばんぶつ かみ
相手の立場になって考える心、万物に神の

せいめい み ところ しょうじき きんべん にんたいしん けんきゆう
生命を観る心、正直、勤勉、忍耐力、研究
ねっしん ふ じよ ところ に ほん ところ やまと だまし
熱心、扶助の心が日本の心、大和魂 であ
ります。他方、欧米白人が相互不信、自分
ほんい かんが かた あいて たちば がんちゆう
本位の考え方、相手の立場など眼中にな
た にん てき り こ てき かんが かた ぜんぞ だいだい
い、他人は敵、利己的な考え方が先祖代々
から染まり伝わって来ているので、今回の
そ つた き こんかい
みぞう だいひ がい たいおう に ほんじん すば
未曾有の大災害に対応する日本人の素晴ら
しさ（特異さ）に驚く訳であります。

日本の素晴らしい心は「日本語」に基因
に ほん すば ところ につぽんご き いん
していると考えられます。自分のことを
さ いちにんしよう こ えいご
指す一人称、ポ語では“EU”，英語で“I”、
どくご かいわ ぶんしょう
独語で“ICH”（イッヒ）は会話、文章で
た よう に ほんご しょうりやく
多用されるが、日本語では省略できる。そこ
は、**「我」を張るという自己主張を避け、「和を
とうと せいしんせい あらわ い
尊ぶ」**精神性が表れていると云えるのである。

我々は「日本語」という財産をもっと大切
われわれ につぽんご ざいさん たいせつ
にして行きたいものです。「日本語」が最高
に素晴らしい言語であることを再認識して
すば げんご さいにんしき
われわれ につけいじん ほこ じ しん ゆうき
我々は日系人として、誇り、自信、勇気をも
て、この素晴らしい財産である「日本語」の
ふきゆうはつてん つと まい おも
普及発展に努めて参りたいと思います。

敗戦後、日本では修身教育を防止したこ
はいせんご に ほん しゅうしんきょういく ぼうし
とによって、道徳心が消失し人心の乱れが
はげ 激しく、素晴らしい日本の心が衰退し昔の
ぎ り にんじよう やまと だまし
義理人情、大和魂 はブラジルにしかないと

ゆうめい ひょうろんか い やまと だまし
有名な評論家が云われた。大和魂 をもった
に ほんじん あ
日本人に逢いたかったら、ブラジルへ行け
とさえ云われた。

今回の未曾有の大災害で日本のすばらし
こんかい みぞう だいさいがい に ほん
い心、大和魂 を再確認した思いであり、全
こころ やまと だまし さいかくにん おも ぜん
世界の人々から日本人は素晴らしいと賞賛
せ かい ひとびと に ほんじん すば しょうさん
されたことを筆者も一日本人として嬉しく、
ほこ おも
誇りに思いました。

日本の建国の理想は「八紘一宇」（全
に ほん けんこく り そう はつこう いちう ぜん
世界の人々が一家族として仲良く相和する
せ かい じんるい いちか ぞく なかよ あいわ
こと）であった。「和を以って尊し」とする
だいちようわ ところ われわれにつけいじん ところ
大調和の心であります。我々日系人の心の
げんてん につぽんご なにごと お
原点は「日本語」にあります。何事に於い
げんてん だいじ もの えいえん さか
ても原点を大事にする者は永遠に栄えます。

今日、我々日系人がブラジルにおいて
きよう われわれにつけいじん
絶対大信用を得ている根拠は先駆者移民が

せいかつ いかん くる に ほんじん
生活が如何に苦しくても、日本人として
やまと だまし あせ なみだ ち にじ
大和魂 をもって、汗と涙と血が滲むような
どりよく つ かさ
努力を積み重ねてきたお陰であります。ジャ
ポネース・ガランチード（日本人は間違
に ほんじん まちが
ない）という高い評価を受けている訳であ
ります。実に有難いことです。先駆者移民
じつ ありがた せんく しゃい みる
に真心から感謝申し上げます。

全世界の人々は日本人が実にすばらし
ぜんせ かい ひとびと に ほんじん じつ
い民族であると高い評価をし、大同団結し
みぞう くなんの の こ りつぱ ふつこう
て、未曾有の苦難を乗り越えて立派に復興
するものと注視しております。頑張ってく
ださい。全世界の人々が日本を応援してお
ります。我々日系人も地球の反対側ブラジ
われわれにつけいじん ちきゆう はんたいがわ
ルから一日も早い物心両面の復興を真心か
いちにち はや ぶっしんりようめん ふつこう まごころ
ら念願するものであります。

日本語書籍

Livraria SEICHO-NO-IE

Ninguen Sonomono no Hakken to sono Jikaku Masaharu Taniguchi	Kami wa ikite iru Seicho Taniguchi	Ashimoto kara Heiwa o Masanobu Taniguchi	Kamisama kara no Itadakimono Emiko Taniguchi	Totsuzen no Koi Junko Taniguchi
---	---------------------------------------	---	---	------------------------------------

書籍のお求めは、所属教化支部書籍部、又は下記へ御連絡ください。
 せいちょう いえでんどうほんぶ べつかん でんわ 電話：(011) 2578-8399 せいせきぶ とよしま
 生長の家伝道本部別館 書籍部：豊島ネウザ

＊ 体験談 ＊

先祖供養の大切さ

聖市第5教化支部 大井スエリ薫

合掌有難うございます。

私はパラナ州ロンドリーナ市で、三人兄弟の長女として生まれました。

幼い頃から内気で弱く、人と話しをするのが恥ずかしく、そのことでずっと悩みながら育ちました。

15才の頃、私達が住んでいた家が火事で焼けてしまい、サンパウロへ引っ越してきました。

それから間もなく、弟が精神病になり、時々ひどい乱暴をするため、父母に取って大変苦しい生活が続きました。

私は26才の年で結婚し、まもなく元氣な男の子を授かりました。

夫はとても優しく朗らかな人だったので、彼と息子の影響で私も少しずつ明るくなり、完璧な暮らしをしていました。

その後、二度目妊娠しましたが、残念ながら流産してしまいました。

1998年に、突然夫が行方不明になってしまい、一日が過ぎ、一週間が過ぎ、ひとつきにかけつたかれもどき一月、二か月が経っても彼は戻って来ませんでした。

そのころ、私が住んでいたアチバイヤ市の生長の家会館の前を通っていると、「先祖と流産児供養祭」と書いてあるのが目に付きました。

私はここで自分の今抱えている問題が解決するのではないかと、思い切って入ってみると、マリアさんという方が、先祖供養と流産児供養の必要性について説明してくれました。

ちょうど三カ月が過ぎた時、夫の行方がようやくわかりました。

彼は、車に轢かれて無残な死に方をしていたのです。身分証明書をもっていなかったので、三か月前に、身元不明者として埋められていました。

私は、一年間毎晩泣いてくらし、6才の息子の面倒もみられないような重いつ病にかかりました。

夫はとても良い人でしたが35才の年で亡くなりました。なぜ私達の人生に、このような悲惨な出来事が絶え間なくおきているのだろうか。

私はその質問の答えを調べるために、サンタナ生長の家で、“人生を支配する先祖供養”という御本を求めました。

その聖典を読み、初めてアチバイヤ市の生長の家で聞いた説明の意味がわかりました。私は大至急先祖供養を始めなければならなかったのです。

すぐに生長の家伝道本部で個人指導を受けて位牌を求め、御霊移しをしていただき、それからは毎日御先祖様、夫、流産児に感謝

弟、息子と五人で仲よく暮らしています。16才になった息子は、亡くなった主人と同じように朗らかで、礼儀正しく、心の優しい子です。

私は今、生長の家で沢山出来た友達の影響で、人とよく話をするようになり、うつ病もすっかりなおり、生きる勇気ができました。

夫が亡くなって、今年でちょうど10年になります。彼の短い人生の努力を無駄にしないため私は頑張ることを決心しました。

私の今の夢は、自分の内気な性格を変え、このすばらしいみ教を多くの人に広めるため、生長の家の講師になることです。

谷口雅春先生、心から感謝申し上げます。神様、御先祖様、父母、亡くなった夫、舅、姑、そして生長の家聖市第五教化支部の皆様にも厚く感謝いたします。

ありがとうございます。

地方便利



去る3月20日「バーチャル講師研修会」がパラナ第一教化支部・ロンドリーナ市で行われた。

れんさい しんり べんきょう だい かい
連載・真理の勉強(第1回)

『新しいチャンスのとき』

たにぐちせいちょうせんせいちよ
谷口清超先生著



I 調和ある世界のために

なに まな つた
何を学び伝えるか



おく もの
贈り物

ひと かんしゃ あいじょう あらわ おく もの
人は感謝や愛情を表すために、よく贈り物
をする。日本人や東洋人には、特にそのよ
うな習慣があるようだ。有名な忠臣蔵の討
ち入りの話なども、贈り物の分量やその
種類などの問題でイザコザが起った事件の
ようだが、物ごとはあまり型式にこだわっ
ていると、不調和になりやすい。けれども
物は「心の痕跡」であるから、古来感謝や
愛情を表すために、正月や記念日などには
贈り物をする習慣があったし、現在でもそ
うである。

たと へいせい ねん がつ にち まいにちしんぶん
例えば平成十一年一月十二日の『毎日新聞』
には次のような「囲み記事」がのせられて
いた。《一人暮らしとなって初めての正月。
暮れから風邪をひき、何の準備もできない
まま、元旦も寝込む次第となった。

ひるちか (08) ちょうかん と げんかんさき で み
昼近く、朝刊を取りに玄関先に出て見ると
つづ もの お (09) 包み物が置いてある。開けると「良いお

しょうがつ むか ぞん ぐち あ
正月をお迎えのことと存じます。お口に合
いますかどうか、心配です。どうぞお召し
上がりくださいませ」のメモ。手作りのお
せち料理だった。

おいし そうな 盛り付け。『だれだろう？だれ
が届けてくれたんだろう？』。自問自答しな
がら、とにかく神棚にお上げした。

わたし ひとり ぐ し
私の一人暮らしを知っているのプレゼント
である。「あの人か？」と思い電話したら
「それはありがたいこと。でも私ではありま
せん」。そう返事され、別のところ当たり
に電話しようとしたが、「また間違っていたら
…」と思い、あきらめた。

テーブルにおせち料理と缶ビールを並べ、
わ ふく き が 替えて正座した。「おせち料理を届
けて下さった方、本当にありがとうございます。
ありがとうございます。そう言い
ながら一口一口、味わいながらいただく。
自然に涙が出てきて止まらなかった。

届け主からの電話を待ったが、ついにそれ
もなかった。やむを得ない理由から始まっ
た一人暮らし。「こんな男にも氣遣ってくだ
さる方が」と思うと、また涙。世の中の情
に触れ、正月早々から男泣きしたのだった。

いばらぎけん な か まち の うち しょう きょういん さい
茨城県那珂町 野内 昌 教員・59歳

ごう ほうそく し
業の法則を知る
(18)

ちか いろいろ じ じょう ひとり ぐ ひと
近ごろは色々な事情で一人暮らしの人もふ
えて来たが、男性はとかく食事や洗濯、買
い物などが不慣れの場合が多い。そこで買っ
てすぐ食べられる既成弁当のようなもので
済ますこともあるが、やはり「手作りのお
せち料理」となると、そこに作った人の愛
念がこもっていて、栄養的にもありがたく
て嬉しいものである。しかもそれを匿名で
元旦に届けられたというのだから、涙が出
るほど感謝されたのであろう。

たとえその贈り主が、誰であるかと分
かっていなくても、良い事をしたのだから、
直接お礼のしようがなくても、その
ひとの善行には必ず善い報いが返って
来る。それが「因果律」であり「業の
法則」「心の法則」でもある。これは社会
事業や宗教団体への寄附でも、協力でも、
善業は善果をもたらすのであって、そ
の逆の場合は悪果を得ること間違いなしだ。

この「法則」を知らぬ人が多いから、とか
く世の中が乱れるのであって、人や会社を
だましてみたり、脱税をしたり、会計をご
まかしたりして「得をした」などと錯覚する。
あるいは又裁判沙汰になっても、「無罪」さ
えかち取ればそれですむように思い込んで、
黙秘したり、ニセの証言をして刑をまぬか
れたり、軽減しようとする。

これは単に「結果」を先送りするだけであ
るが、人間はこの世の一生でいのちが終る

のではない。この世の寿命がつきると、次
の世(次生)が待っているし、その次から
の後生も続々と控えていて、永続するので
ある。その永い「人生学校」の中で、「諸悪
莫作」「衆善奉行」、つまり善いことをせ
よ、悪いことをするなという教を学習し、
本来の「神性・仏性」なるものに目覚めて
行くのである。

従って人は誰でも、男女問わず、善い事を
し、悪い事はしない。ウソいつわりを言わず、
行わないことだ。するとその善行はどん
なに小さいようでも、本当は小さくはない。
ちょっとした挨拶やお礼でも、口に出すの
と出さないのでは、相手に対する影響が
ちがうから、その「ちょっとしたこと」が
大きな善業へと発展するのである。一匹の
蛙を助けるのと、ふみ殺すのとの差は、大
いに異なるのである。

それ故、人の美点を見て、それを数え上げ
るという習慣は、その人の人生を変え、善
い報いをうけとること確実である。この世
には若者だけとか、老人だけとかという
領域があるわけではない。だからお互いが
「欠点」や「美点」を持ち合っている。そ
れを非難するばかりではなく、別の方法を
見出さなくてはならない。この点について、
平成十一年一月十二日の『読売新聞』には、
次のような「人生案内」がのせられていた。

『36歳の会社員です。勤務先で、周りにい
る年配者が立てる音に我慢がなりません。
口の中で入れ歯をカリカリ鳴らしたり、

食事をしている時にクチャクチャ音を立てながら食べている人が多いのですが、私はその音が嫌で嫌でたまりません。お茶をズー音を立てて飲む人もいます。最近では、こうした音が聞こえる度に、「い加減にしろ」と叫びたくなってしまいうほどです。当然、ストレスがたまるので困っ

ています。人の欠点のようなことを指摘し、注意することもなかなかできません。毎日がストレスだらけです。一体、どうしたらいいのでしょうか。(埼玉・M彦)』

- (01) 東洋人 oriental (02) 忠臣蔵の討ち入りの話 a história do ataque surpresa que os 47samurais fizeram em revanche ao seu superior, que foi assassinado (03) イザコザ desavença
- (04) 型式 formalidades (05) 心の痕跡 manifestação do sentimento (06) 古来 antigamente
- (07) 囲み記事 artigo de jornal em caixa (08) 元日 O dia do Ano Novo
- (09) 朝刊 jornal matutino (10) おせち料理 pratos do Ano Novo (11) 盛り付け por no prato de maneira estética (12) 自問自答 solilóquio, pensar em voz alta (13) 缶ビール cerveja em lata
- (14) 和服 quimono (15) 届け主 pessoa que enviou (16) 気遣う preocupar-se
- (17) 情に触れ sentir o calor humano (18) 業の法則 a lei do carma (19) とかく muitas vezes
- (20) 不慣れ falta de prática (21) 既成 pronto para consumo (22) 栄養的 valor nutritivo
- (23) 匿名 anônimo (24) 善行 善行 ato de boa ação (25) 因果律 lei da causalidade
- (26) 社会事業 serviço social (27) 善業は善果をもたらす uma boa ação traz bons frutos, resultados (28) 悪果 maus frutos (29) 脱税 sonegação de imposto
- (30) 錯覚 falsa impressão (31) 裁判沙汰 caso judicial (32) 無罪 inocente
- (33) 黙秘 manter -se calado (34) 軽減 comutação, redução de pena (35) 寿命 tempo de vida
- (36) 後生 na outra vida (37) 永続 dar continuidade (38) ウソいつわり mentiras
- (39) 異なる difere (40) 確実 certeza (41) 領域 domínio territorial (42) 勤務先 local de trabalho
- (43) 年配者 pessoas de idade (44) 指摘 apontar

「パラナ第一 壮年・若鳩交流会」



「交流会の開会の祈り」
Oração de abertura do Encontro



「講話中の向芳夫本部講師」
Prof. Yoshio Mukai durante a palestra



「美しい歌声が会場いっぱい広がる」
A harmoniosa vibração preenche o salão



「楽しい昼食の一時」
Momento de descontração

パラナ第一教化支部の壮年若鳩交流会が去る2月14日ロンドリーナから約15キロ離れた所のシャーカラ Shallan Eventos で開催された。300人収容できるガラス張りのホールは素晴らしい田園風景の中に位置する。14日の朝は曇りであったが、涼しくて心地よい日和だった。午前10時からラ・ベいきょうかそうちようむかいよしおほんぶこうし米教化総長・向芳夫本部講師の講話がおこなわれ、地球温暖化、エコロジー、そして体験談も交えながら、人間神の子の真理を

わかりやすく説明された。講話の後、コーラスによる素晴らしい歌が披露され、最後に『ふるさと』を参加者全員で合唱し、午前の部が終了した。会場の屋外のレストランで昼食を済ませ、午後からは記念撮影、踊り等が行われた。サンパウロ、マリンガ、クリチーバ、その他から集まった参加者は有意義な一日を過ごし、大成功の交流会となった。

聖市第二教化支部担当地区見真会

ちほうだよ
地方便り



「担当講師と実行委員の皆様」

Preletores e colaboradores do seminário



「聖歌を斉唱する参加の皆様」

Participantes entoam Hino Sagrado

聖市第二教化支部で、去る3月27日に「皆で行こう明るい、楽しい半日見真会」という呼びかけで午後1時半から5時半まで、ビラ・ボンフィグリオリ会館に於いて地区見真会が開催された。この地区はボンフィグリオリを始め、リオ・ペケノ、パルケ・コンチネンタル、ジャグアレー相・白かいけつせいで結成され、地区部長の原さと子伝道員が先頭に立ち、地区内の幹部の皆様が実行委員を結成し、テキパキと準備を整え、目標の100名を上回る、120名の参加があった。今回の交流会の目的は、あまり遠くまで行くのが無理と思う人達、又は日頃忙し

くて余り生長の家の話を聞く機会がないと云う皆さんの為に、僅かな時間でも生長の家の素晴らしさを再認識してもらうためであった。見真会の担当は聖市第3教化支部の藤井龍雄講師、聖市第2教化支部の細井あさ子講師が指導に当たった。テーマは「何時天国は成就するのか」、「こちらの心で相手が変わる」、「神を本当に好きになるには」など、両講師はユーモアを交えて話された。他にジナミカ、アトラクションが用意され、時間が経つのを忘れ、参加者の皆様は喜びを胸に帰宅された。

◆ 成功とは金の出ることではない。名の出ることではない。『生命』の向上進歩することだ。
 < 智慧の言葉 >

「ツクルビー支部 創立 50 周年記念」



2011年2月13日、聖市第五ツクルビー支部は創立50周年記念式典を開催した。1961年に三浦徳治氏によって支部が発会され、支部発展のため、熱心に光明化運動に邁進された。御高齢ながら今も健在でめでたく50周年を迎え、出席されて、発会当時から現在に到るまでの成り行きを語られた後、記念品と感謝状が贈られた。幹部の挨拶と教化支部代表者からお祝いの言葉があり、その後宴会に移った。

◆ 愛はすべての物に調和と平和とを齎らす精神波動である。此の世に隠れたる愛がなかったら、もっと此の世は悲惨であったに違いない。愛の精神波動は永遠に消えないで、ついに神のみ許に達するのだ。
 < 智慧の言葉 >



「聖市第4教化支部ージャンルジン・ダス・オリヴェイラ支部は、去る1月23日に第9回半日見真会及び新年会をシチオ・トロピカルで開催した。107名の参加者があった。担当は岩坂吉彦講師。」

「去る3月27日、パラナ第5教化支部は、クリチーバ市で「寿」見真会を開催した。担当は横山寿彰講師、横山澄子講師が指導にあたった。参加者は142名。」



「去る2月20日、聖市第4教化支部は、壮年・若鳩栄える講演会を開催した。(頂いた写真が多少の露出不足)」

生長の家 塩椎の会俳壇

薬効の知らずに食す隼人瓜 仲宗根朝春
働くは神の攝理ぞ労働祭 柿津波今や世界の共通語
気品良く正しく咲いた君子欄 立川 ゆう
吊し柿市の人声足止めす 愛情の続く世の中天高し
労働祭朝より物故者慰霊祭 坂本 君枝
セーナ逝き今尚墓参続けられ 母の日に墓参は心温まる
母の日を一人巡らす想ひ出を 荒巻 重乃
カザメント田舎の土産ピッコとは 日本で三十キロの大大根
天災に逢う人命のはかなさよ 村松 里乃
靴残し子等いづこぞよ大惨事 老いて尚望みは捨てず冬支度
母の日やフロールズマイオ咲めて 矢島みどり
三代の母健在なり祝われて 母の日や父もニコニコ嬉しそう

行李背に夜逃の移民星流れ 身吉 尚子
行行バス窓に眺める流れ星 転耕車シート陰より星見あげ
赤旗の靡く広場や労働祭 木村都由子
母の日を知れるかに咲く五月花 砂釜瑠りカントラの灯に眉焦かし
吊るし柿そろばんのごと軒に吊り 香山 和栄
養老院の屋根より低く鯉幟 鯉幟 養老院の散歩径
武者人形幟はためく端午の日 立石 松男
吹き流し大口あけて空に舞う 母の日や母の面影目に浮ぶ
母の日や母の遺訓を大切に 湯田南山子
軒の真浦くぐり移住の旅に出し 子供の日童に還る卒寿の翁
焼芋は栗より美味いと賞美され 森西 茂行
吾が先祖四国山脈山眠る 密柑の王パイアノの味最高よ
狐火や牛追ひ径のあれしまま 板沢 千秋
狐火の嫁入り列のモチ箱根 狐火の牛車軋みに灯り消え

「神性開発一般練成会 (日語) へのご案内」

下記の日程で、練成会が行われます。人生をより豊に、より幸せに送る原理と秘訣を学び、実り多い人生に致しましょう。

日程： 2011年9月9日～11日
場所： 南米練成道場 (イビウーナ)
担当： 山岡正登 講師
補佐： 石井かずえ講師、山本ジュリア講師
特別招待講師： 生長の家伝道本部理事長・村上真理枝本部講師
石井ルイス本部講師補

「お話・体験発表・雄弁：大会」



まいねんおこな ちども ぜんこくたいかい ちども はなしたいかい そうねん わかほと たいけんだん はっぴょう たいかい
 毎年行われる、子供全国大会、子供お話大会、壮年・若鳩体験談発表大会、
 せいねんゆうべんたいかい かき につてい おこな
 青年雄弁大会が、下記の日程で行われます。

かくきょうかし ぶ せんぱつ ちども はなし そうねん わかほと しんり じつせいかつ い
 各教化支部から選抜された子供たちのお話や、壮年、若鳩の、真理を実生活に生か
 とうと たいけん それに、せいねん ゆうべんなど すべ にほんご おこな ちども
 した尊い体験、それに、青年の雄弁等、全て日本語で行われます。また、子供とジュ
 にかいが か かた さくひん てんじ
 ニアの絵画や、書き方の作品も展示されます。

につけいしゃかい なか ひごと うしな にほんご たい ねつてい たい ぜひ らいじょう
 日系社会の中で、日毎に失われつつある日本語に対する熱意に対し、是非ご来場の
 うえ あたた はくしゅ おく あ くだ
 上、温かい拍手を送って上げて下さい。

「子供全国大会：子供・ジュニアお話大会・絵画」

き じつ ねん がつ にち ど ご ぜん じ はん
 期日：2011年10月22日(土) 午前8時半より

ば しょ せいちょう いえ でんどうほんぶ べつかん
 場所：生長の家ブラジル伝道本部別館

「壮年・若鳩体験談発表大会：青年雄弁大会」

き じつ ねん がつ にち ど ぜん じ はん
 期日：2011年10月23日(日) 午前8時半より

ば しょ せいちょう いえ でんどうほんぶ べつかん
 場所：生長の家ブラジル伝道本部別館

